第 298 号　　米原区自治会　　兼箇段 1561-1　TEL：973-3431

令和５年
（2023 年）
８月

ゆりー

米原区の人口及び世帯数

令和５年７月末現在
戸数　　1,147 世帯
人口　　2,750 人
男 1,358 人　女 1,392 人

・・区の行事予定・・

８月
１日（火）ミニ・デイサービス
８日（火）千尋会定例会
18 日（金）審議委員会
20 日（日）クリーン作業
＊コロナの状況を見て判断

９月
５日（火）ミニ・デイサービス
８日（金）審議委員会
12 日（火）千尋会定例会

今月の徴収金

区　　費	1,000
防犯灯負担金	150
合計	1,150 円

ありがとうございます

・３班の福地心一様（浄福寺）より、飲み物の寄贈がございました。。

米原区クリーン作業　８月 20 日(日)　午前８時～

区内の雑草・雑木・ゴミなどを除去し、さわやかな気分でウンケーを迎えましょう！コロナ感染が気になるところですが、充分な距離を確保して作業を実施したいと思います。燃料（ガソリンと混合）は、公民館で準備し当日巡回しながら提供します。「**ポイント**」草木とペットボトル、紙やビニール類（お菓子の袋など）は燃やせるゴミとして、缶やビンなどは、燃やせないゴミとしてそれぞれ分別してボランティア袋に入れて下さい。袋は、後で回収するので道路沿いの目につきやすい場所に集めて下さい。水とハンバーガーも配布しますが、ハンバーガーは、コロナ感染予防の観点からお持ち帰り下さい。ご協力よろしくお願いします。

野焼きの煙・臭いで困っています！

野焼きが法律で禁止されてから２０年余が経ちました。最近、近隣住民の自宅庭などで野焼きが行われ、「煙や臭いで大変困っている」と区民からの電話連絡が公民館に複数寄せられています。野焼きには例外的に認められているものもあります。①災害時における木くずの焼却、②地域の行事における不要になった門松、しめ縄の焼却などが挙げられます。しかし、ビニール類、タイヤ、プラスチック類は、いかなる場合においても焼却禁止となっています。

また、周辺住民の生活環境に配慮して行う必要があり、苦情などが出た場合は、すぐに中止しなければなりません。お隣さんとの不要なトラブルを避けるためにも、野焼きはやめて役所の回収に任せましょう。

包括支援会議

うるま市地域包括支援センター「具志川にし」と米原区自治会は、毎月一回、高齢者支援のための会議を行っています。

区内の 65 歳以上の高齢者世帯で、支援を必要としている方の有無などに関する情報交換の場です。例えば「電動クルマイスが必要だが、どこに聞いたらいい？」など様々な相談の窓口となり、解決に向けて話し合い対処していきます。自治会に相談するには、チョットためらいがあると云う方は、直接、包括「具志川にし」に相談することもできます。

「具志川にし」：【☎989-3788】

さあ、お困りごとがあれば、自治会または地域包括支援センター「具志川にし」にお気軽にご相談下さい。

＊65 歳以下のご相談は、社会福祉協議会が対応いたします。【☎973-5459】

七月の審議委員会の審議事項（七月十四日（金）開催）

・クリーン作業について

コロナ感染の危険性は依然としてあるが、野外での作業である事等を考慮し、熱中症に注意しながら実施することとする。

・区境界線について

うるま市（市民協働政策課）から、米原区の行政区域と隣接する志林川、赤道、兼箇段などそれぞれの区との境界を線引きしたいという要望があり、何度か図上での確認を進めているところであるが、本件は心情的な側面も大きく含み得ることから、慎重に進めていきたい。進捗については、審議委員会に報告し承認を得ていきたい。

・敬老会の余興について

これまでの敬老会では、招待される方々が舞台での余興に出演し、招待客として敬老会をじっくり楽しめていなかった面がある。一方、当事者であっても舞台に立ち、日頃の稽古の成果を披露する喜びもある。よって、今年の敬老会の余興には、折衷案として区民とセミプロ（ゆんたく）による演目を検討している。（高齢者は、プロ・セミプロの演舞を見る機会が中々ないので、敬老会で実現すれば、きっと喜ばれると思う、という委員の意見を踏まえて）。

山原麗華出張コンサート in ゆり～

沖縄の歌とそれにまつわる逸話などの紹介があり、笑いに満ちた楽しいひと時でした。手風琴、又会いたいな☺

種ジャガイモの注文について

品種：熊本産ニシユタカ（10 kg詰）

価格：９月中旬頃決定
（参考:去年の価格 3,170 円）

納期：令和５年 10 月中旬の予定

＊注文を希望される方は、公民館までご連絡下さい。TEL973-3431

締め切り　９月 26 日（火）

☺ どうーちゅいむにー

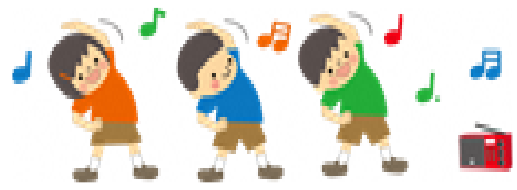
イノウエ、フルトンを粉砕
イノナカまでやられた
―フルトン陣営
井上尚弥殿

夏の甲子園出場決定
沖ショータイムを期待しています
―県民一同
沖尚ナイン殿

ウクライナ人がうるま市から福岡へ
ウクライナがアカルイナになりますよ
うに祈っています
―うるま市民
ナディーヤさん家族殿

やってますよ～、ラジオ体操

期間：7/24(月)～8/29(火)
月曜日～金曜日
土日・祝祭日はお休み
時間：朝６時 30 分～
場所：米原公民館広場



～へー、そうだったのかー！（パート６２）～
―ミサイルの代わりに花火を打ち上げよう―

８月、葉月。うだるような暑さが続く夏の真っただ中。毎年、前年の夏の暑さを更新しているように感じる。この調子で記録更新が続いた先には一体何が待ち構えているのか？　想像すると気が滅入ってくる。自然への畏怖を忘れ、思い上ってきた人類が、今そのツケを払わされているのではないかとふと思ったりする。

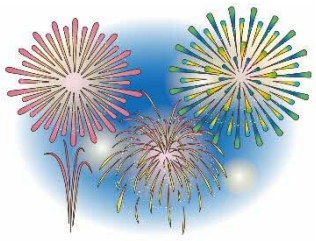
そんな暑さの中、道行く車の運転席では、窓に差し込まれたウチワ２枚が、照り付ける太陽にノーノ―のダメ出しをしている。工事現場では、まるで着ぐるみのようなファン付きジャケットを着たお兄ちゃんたちが、立ち働いている。これなしでは仕事にならないと云うが、その出で立ちを見ているとこちらの方が暑くなる。

８ 月には色々な行事・イベントが控えている。高校野球甲子園大会、各地域でのエイサー、夏祭りにお盆と目白押しだ。

祭りに付き物と云えば、言うまでもなく夜空を彩る花火だろう。花火の始まりは、中国、秦の始皇帝の時代で使われた「のろし」だと云われ、情報を伝える手段として使われていたものだと云う。現在の様に、見て楽しむものではなく、IT の先駆けだったようだ。

「見て楽しむ」花火は 14 世紀ごろにイタリアで始まったといわれ、キリスト教のお祭りに登場した火花や音を出す「しかけ花火」のようなものが、やがて世界中に広まっていき、様々な色や形が作られていくようになった由。そして、日本人で最初に花火を見たのは、徳川家康だと云われている。「開かぬなら開くまで待とう打ち上げ花火」などと言ったりしたかもしれない。

日本での打ち上げ花火のはじまりは、江戸時代まで遡り、１７３３年に隅田川で行われた水神祭がその由来と伝えられている。 当時関西や江戸では、飢饉・疫病の流行により、多数の死者がでたため、その死者たちの霊を慰めたり、悪い病気を撃退するために水神祭が催され、打ち上げ花火が上げられたのが最初だと云う。 そして、次第に根付いていった花火大会は、今や日本各地の夏の風物詩として多くの人に愛されるようになった。



夏が来ると沖縄でも各地で花火大会が催されるが、本土と沖縄の大きな違いは、花火の打ち上げ数だ。本土各地での花火の数は、２万２～５千発と２万発台が多い。一方、沖縄県は、海洋博公園での１万発が最多で、他の祭りでは一千発台が圧倒的に多い。比較にならないのだ。まるで、月とスッポン、料理に味ぽん、お風呂の中ではすっぽんぽん、と云う程に水をあけられている。

さてさて、今日は花の金曜日の花金だ。どこかで花火大会があれば見に行きましょうか。

―へ～、そうだったんだ！―